



令和6年12月号掲載

男女共同参画社会をつくる

女子生徒等の理工系分野への進路選択に向けた支援策を、主体的かつ積極的に進めている団体相互の情報交換など協力体制等の強化を図るため、内閣府は令和6年10月23日（水）に「第8回理工系女子応援ネットワーク会議」を開催しました。

科学技術・学術分野は、我が国及び人類社会の将来にわたる持続可能な発展のための基盤です。近年活発になっているIoTやビッグデータ、AI等の最先端の技術開発及びその技術を活用した製品やサービス提供等においても、男女が共に参画し、その恩恵を享受できることが重要です。現在、研究職・技術職に占める女性の割合については、日本は諸外国と比較して低水準に留まっており、女性の更なる参画拡大が望まれます。計画的・長期的に研究職・技術職に進む女性を増やすべく、女子中高生、保護者、教員等における科学技術系の進路への興味関心や理解を全国的に向上させるための取組により女性の理工系進路選択を促進し、次代を担う女性の科学技術人材を育成することが重要です。

こうした意識のもと、女子生徒等の理工系分野への進路選択に向けた支援策を、主体的かつ積極的に進めている団体相互の情報交換など協力体制等の強化を図るため、内閣府は令和6年10月23日（水）に「第8回理工系女子応援ネットワーク会議」を開催しました。オンラインで開催し、全国から110団体・145名に出席いただきました。



1. 理工系女性人材の育成に係る取組説明、夏のリコチャレ 2024 報告

内閣府・文部科学省より、科学技術・学術分野における現状と課題、理工系女性人材の育成のため取り組んでいる施策について説明しました。その後、「夏のリコチャレ 2024」イベント実施団体へのアンケート結果を踏まえて、今年度の振り返りを行いました。「夏のリコチャレ 2024」では、119 団体により、228 のイベントが行われ、約 6,900 名以上の方が参加しました。

2. 夏のリコチャレ取組事例発表

<地方公共団体の事例>

和歌山県庁より発表いただきました。和歌山県庁は、県内の企業・大学と協力し、見学バスツアーを企画・実施されました。今年で2回目の取組となるバスツアーの内容をご紹介いただき、地方自治体と企業・大学等が連携して行う産学官連携イベントの実例を示していただきました。また、バスツアーでご活用いただいた、STEM Girls Ambassadors 事業の紹介もしていただきました。

<大学の事例>

大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワーク（以下、「大阪大学」といいます。）より発表いただきました。大阪大学は、複数の大学や高等専門学校と連携し、リモートと実地のハイブリッド開催で実施するとともに、参加申し込み数が、340 件を超えるなど、多くの参加者の確保に成功しておられます。実施したプログラムの構成や、保護者への働きかけの重要性についてご紹介いただきました。

<企業の事例>

株式会社フジタ（以下、「フジタ」といいます。）より発表いただきました。フジタでは、今年で8年目となる経験を踏まえ、イベントの実施に当たり、工夫していることをご紹介します。早い段階でプログラムを決定し、チラシに反映させること、参加者の年齢層が幅広い場合はグループ分けを行うこと、体験のみでなく参加者が将来を考える時間を設けること等、具体的な工夫点をご紹介します。



（事例発表の様子）左：和歌山県庁、中：大阪大学、右：フジタ

3. グループディスカッション

グループディスカッションでは、イベントを実施した団体が工夫点やノウハウを発表し、イベントの実施を検討している団体からは積極的な質問がなされるなど、参加者の間で活発な意見交換がなされました。

「理工系女子応援ネットワーク会議」の詳細は下記リンクをご覧ください。

<https://www.gender.go.jp/c-challenge/dantai.html>



内閣府男女共同参画局 共同参画12月号 転載